

## 第2回 日高川（中上流域）を考える会 議事録（概要版）

日時：平成27年6月11日（木）13:30～15:20

場所：日高振興局 別館2階大会議室



### 1. 開会

### 2. 議事内容

- ・日高川水系河川整備計画の目標及び整備内容について

### 3. 審議内容及び決定事項

#### 日高川水系河川整備計画の目標及び整備内容について

日高川水系河川整備計画の目標及び整備内容について事務局から説明。  
説明に対する委員からの主な意見・質問は以下のとおり。

## 〈主な意見・質問〉

◆河川整備計画の策定は、急がずに中長期的にみて慎重に、様々なリスクを想定して策定してほしい。(委員)

◆ダムの放流量が1000m<sup>3</sup>/s や2000m<sup>3</sup>/s になった場合に避難に役立つ浸水マップを作るのがいいのでは。(委員)

◆河川計画と合わせて、ダムの運用方法を検討して欲しい。(委員)

→ダムの放流量を増やすに当たり河川整備が追い付いていない現状では、すぐにダム運用を変えることはできない。河川整備計画に基づいた河川整備を進めていく過程で考えていきたい。(事務局)

◆小熊地区は日高川町のうち唯一津波の影響を受ける箇所なので、津波対策で堤防補強をして欲しい。また、堤防が2mぐらい下がっている箇所があるので、嵩上げて欲しい。(委員)

◆江川の上流側は整備計画に入っていないのか。(委員)

◆地区の代表として出席しているので、地元の意見を伺うために一度持ち帰らせて欲しい。(委員)

→(今後の進め方について説明。)今後の進め方の中で、住民の意見を広く聴く場としてパブリックコメントも行います。(事務局)

◆今後の進め方は分かるが、住民代表として参加しているので、素案の段階で意見を反映して欲しい。(委員)

◆椿山ダムに土砂が堆積しているので撤去していただきたい。(委員)

→ダムは当初計画から土砂が貯まることを見込んでいます。椿山ダムでは、土砂堆積が洪水調節容量を越えている状況ではありません。また毎年、ダム湖内の堆積状況について測量をしているので、その結果等を注視しながら対応していきます。(事務局)

◆日高川の野々子川合流点の堆積土砂は撤去しないということか。(委員)

→過去の測量図面と比較し、状況を注視し対応していく。(事務局)

◆野々子川は護岸が崩れており対策されていない。対策をお願いしたい。皆瀬地区打尾地区の河原が高くなっている箇所、寒川地区で土砂堆積が多い箇所があるので現場確認してほしい。(委員)

→現場等を確認します。(事務局)

◆河川整備計画は、平成15年8月台風10号に対応する計画か、昭和28年あるいは平成23年の洪水に対応する計画のどちらなのか。(委員)

→河川整備計画では、昭和28年や平成23年の洪水に対応しようとする時間及び費用がかかってくるので、今後20年間でできる段階的な整備として平成15年台風10号で家屋浸水被害を解消することを目標としています。(事務局)

◆河道掘削するなら、手戻りにならないように、土砂がむき出し箇所です々の洪水でも削り取られないよう対策をお願いしたい。(委員)

→掘削を計画している箇所は、必要に応じて護岸の施工を計画しています。(事務局)

◆掘削を計画していない箇所で護岸が未整備なところが各所あるので、それらを整備しない限り下流に流され埋まるのでは。一度現場を見てほしい。(委員)

◆椿山ダムは洪水調節容量内に土砂が堆積しているとの記事があったが、この土砂を撤去する計画はあるのか。(委員)

→ダムの洪水調節容量は必要な容量よりも余裕をもって計画されていて、椿山ダムではその余裕の中で納まっています。また、ダムの堆積は計画よりも早いですが、ダム湖内は毎年測量してどれくらい貯まってきているかを確認していますが、将来的には土砂撤去も考えていかなければならないと認識しています。(事務局)

◆若野橋下流の河床が1mほど下がってきている。取水ポンプの施設更新時にポンプ据え付け位置の検討が必要となる。日高川の河床はどこで下がるのか。(委員)

→河川整備計画では、若野地区より下流は掘削しないので、今より河床低下はしないと考えている。しかし将来の計画もあるので、建設部と協議をして下さい。(事務局)

◆小熊の堤防補強を、維持管理ではなく、計画的に20年間にどうするというような計画を入れていただきたい。(委員)

→根固めブロック等を補充して維持管理に努めます。(事務局)

◆日高川で道路を兼用しない単独の堤防はこの区間だけと思うので、50mずつでも良いので計画的に補強してほしい。(委員)

→浸透流等に対して、対策が必要であれば、計画的に整備することになりますが、その基準を満足しているのであれば維持管理の範囲になります。(事務局)

◆小熊地区における河川の流れをできるだけ真ん中になるようにして欲しい。堤防から川の真ん中まで歩けるような昔の川の姿にして頂きたい。(委員)

→滯筋を真ん中に寄せる話はなかなか難しい。自然の流れに任せざるを得ないと考えま

す。(事務局)

◆津波対策として、土生川の出口に水門を設置してほしい。(委員)

◆堂閉川の改修には時間がかかるので、ポンプアップ等、なるべく早く効果が出る方法を考えて頂きたい。(委員)

◆日高川左岸の江川合流点の7.0k~7.2kでは堤防が無いが、合流点処理の関係でどうするのか。(委員)

→必要高が不足している場合は、築堤する必要があると考えます。(事務局)

◆若野地区で水面上を掘削すると、河原が広くなり草刈りの必要面積が多くなる。地域の住民が高齢化し、草刈りが大変になっているので、地域に任すのも難しくなるのでは。(委員)

#### 4. 閉会